

霧島市長選 中重、前田、仮屋氏が立候補表明

(2013 03/28 11:45)

11月の任期満了に伴い実施される霧島市長選挙は27日までに、霧島市・始良郡区選出県議の中重真一氏(36)、霧島市長の前田終止氏(65)、同市議会議長の仮屋国治氏(56)の3氏が立候補する意向を表明した。



中重氏は27日までの南日本新聞の取材に対し、立候補する意向を明らかにした。

「若い目線で霧島市をもっと元気な街にしたい」と立候補の理由を述べた上で、「霧島市が持っている自然や観光、地の利など地域資源を最大限生かした街づくり、産業振興をしたい。子育て支援や教育の充実も図る」と意欲を語った。

県議職については「しかるべき時期に辞職したい」とした。

中重氏は同市国分出身。2002年旧国分市議選に初当選、合併後の霧島市議も務めた。07年県議選初当選。

中重氏が辞職すれば霧島市・始良郡区(定数4人)は欠員1となるが、複数人区のため補欠選挙はない。



前田氏は27日の市議会最終本会議で3期目を目指し立候補する考えを明らかにした。

閉会後の記者会見で前田氏は「市民が主役の信念の下、さまざまな難題に取り組み、一定の方向を打ち出してきたが道半ば。仕上げていかないと。今までの政治人生の全てを込め、多くの課題にスピード感を持って力を尽くしたい」と述べた。

前田氏は同市牧園出身。1987年から県議4期、牧園町長を経て合併後の霧島市長選で初当選した。



仮屋氏は27日の市議会最終本会議後に記者会見を開き、立候補する意向を表明した。

仮屋氏は「議長職では自分の思い描く市政に限界がある」とし、「幹線道路や医療体制、周辺地域の充実など図り、鹿児島県第二の都市としてふさわしい街づくりをしたい。安心増、人口増、産業増の3本柱で政策を考える」と決意を述べた。

議長職、市議職は「しかるべき時期に辞職する」とした。

仮屋氏は同市国分出身。02年旧国分市議選に初当選し、合併後の霧島市議を務める。11年12月から議長。